

# 『自分を信じること』

茨城県古河市

総和剣道クラブ

中学1年生

翁川貴成

剣道はスポーツなのでしょうか。スポーツはやっていると楽しいです。でも剣道は、剣道を通しての行事や仲間と過ごす時間は楽しいけれど、剣道自体にはウキウキするような軽い楽しさはありません。なぜなら、剣道は、礼節を重んじる「武道」だからです。

ぼくにとって、剣道が趣味かと聞かれたら、趣味ではない気がします。むしろ生活の一部だと思っています。しかし、こんなに毎日のようにけいこをしても、なかなか思うように上達しないのは、ぼくという人間が、器用でも天才でもないからです。毎日のけいこの中で、少しずつでも前に進むために、ぼくは、一日一日薄い紙を一枚ずつ重ねるつもりでけいこを続けています。けいこ前の黙想の時間では、「今日のけいこは何を目標にやろうか」とか、「前回注意された点はどうしたら修正できるのか」を考え、シュミレーションするようにしています。そして、終わりの黙想では、その日のけいこ内容を振り返り、先生から注意を受けた点ができるようになったかを思い出し、目標にしていたことができたかどうかを反省します。自分はどんな努力をし、どんなけいこをしたのか、自分自身に厳しく問いかけることが、今のぼくにとってどれだけ大切か、最近になってわかってきました。「剣道は、怖いと思った時点で負けだよ。」という先生の言葉は、「誰よりも自分の力を信じて相手と対することができるか」ととらえることもできます。ぼくは、怖くはありませんが、自分の力を信じ切れるのかと云ったら、まだそこまでは至っていません。一枚一枚の薄紙が堆積して、厚くて強い一枚紙になっていることはまだ実感できません。しかし、「継続は力なり」の詞が示すように、一つのことを地道に続けることが、ぼくらしい方法だと思っています。

ぼくの将来は、具体的にはまだ決まっていますが、そんなぼくに、「剣道も勉強も基礎基本をしっかり学びなさい。いかだの上にマンションは建たないからね。」と母の叱咤激励が飛びます。大きな木は、広く深く根を張っているのです。決して倒れることはありません。基礎基本を大切に、土台をしっかり積み上げていくことで、どんな職業についても、どんな時代が来ても、強く生きていける力を今から養っておく必要があると思います。そして、剣士らしく、心正しく、先生の教えを守り、その教えを受け継いでいき、礼儀と感謝の心を忘れずに、堂々とした「心の強い人間」になることを目標にしていきたいです。

ぼくの学校では、アクティブラーニングという体験学習の授業があります。色々なことを実際に体験していくことで、どんな状況にも応じることのできる人間になるための授業です。剣道もまさにアクティブラーニングなのだと思います。「苦しい時に、そこからさらにもう一本打てる気力を養いなさい。」と先生に言われます。その気力こそ、このアクティブラーニングの中で培われていくものなのかもしれません。オリンピックの陸上選手がインタビューで、「自分を信じて走りました。」と応えている場面を見て、「自分を信じること」、つまりその字の通り「自信」は、毎日の厳しい練習の成果の上でできるものなのだと思います。「自信」とは、まさに体験の積み重ねそのものなのです。そして、「自信」に勝るものは、日々の積み重ねと努力以外にはないのだということを確認しました。

ぼくは今、ひたすら土台を作っています。どんな時代が来ても、社会に貢献することのできる心の強い人間になるために、日々努力をしています。剣道以外にも、ぼくには、毎日の課題ややらなければならないことが沢山あります。しかし、辛くてもコツコツと努力していけば、その努力は必ず報われると信じてがんばります。将来、「自分を信じること」ができるようになるために。